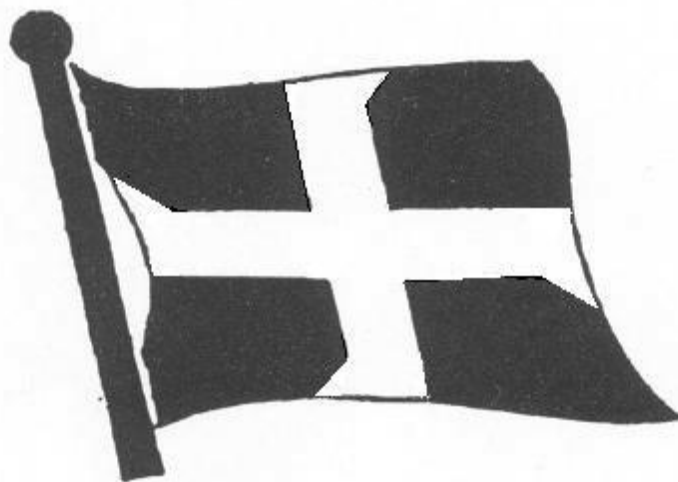


# 蒼穹 NEWS

NO.5

## 七大戦総括号

令和5(2023)年 8月 2日発行



—目次—

- ①主将挨拶・女子主将挨拶・監督挨拶
- ②七大戦結果
- ③七大戦各競技総括
- ④その他ご報告

## ①主将挨拶・女子主将挨拶・監督挨拶

### 《主将挨拶》

先日行われました七大戦において、男子は 84.5 点で総合 2 位、女子も 21 点で総合 2 位となり、目標としていた男女総合優勝には届かない結果となりました。

男子については、かなり不利だった事前ランキングからは大きくランキングを返し、首位大阪大学との差を詰めることはできましたが、並ぶことは及ばず、実力差を感じる結果となりました。また、女子については、事前ランキングトップのプレッシャーがある中で、事前ランキングを守りながら戦いを進めることができましたが、フィールド種目を中心にランキングを返した大阪大学に敗れました。

2 日間を通して、多くの好記録が見られ、この 1 年間で京大が成長してきたことを示すことはできたと思います。この日まで、健闘してきた部員を労って頂きたいと思います。

その一方で、目標に届かなかったという重い事実もあります。勝利を手中に収めるには、より一層の成長が求められています。この七大戦を持って、幹部代が一時的に 3 回生に移行しますが、今後も更なる成長を求めて努力を重ねてまいります。

最後になりましたが、蒼穹会の皆様におかれましては、暑い中遠方まで駆けつけて応援してくださり、また、各地から記録・動向を見届けてくださり、誠にありがとうございます。今後とも変わらぬご支援・ご声援の程を何卒よろしくお願い申し上げます。

京都大学陸上競技部主将 齋藤 啓

### 《女子主将挨拶》

部員全員で全力で挑みましたが、目標としていた男女総合優勝には届くことができませんでした。強くなり続けている女子チームはかなり近いところまで来ていただけに、非常に悔しいです。

しかし、当日だけでなく、その過程も互いに励まし合って本気で挑んできたからこそ、あらゆる面で大きく成長することが出来ました。間違いなく今後の糧となるようなかけがえのないものです。どの部員もこれからの活躍が楽しみです。

私たちの代最後の対校戦である東大戦では、競技を、勝負を楽しみ、勝利できるよう努めてまいります。

蒼穹会の皆様には、暑い中遠方にも関わらず多くの方にお越しくださり、誠にあり

ありがとうございました。今後とも変わらぬご声援のほどよろしく願いいたします。

京都大学陸上競技部女子主将 三好 紗椰

### 《監督挨拶》

七大戦の結果は、男女とも 2 位となり、目標としていた男女総合優勝は達成できませんでした。男子は試合開始時に 40 点ほどあった点差を大きく縮め、女子も当日できることを最大限した結果でしたが、1 位の阪大が京大よりも上手であったことは認めざるを得ないでしょう。

齋藤と三好が中心となりチームを率いてきた 1 年間で間違いなく我々はさまざまな面でレベルアップをしてきましたが、他大学も同様に強くなっていることを忘れてはならないと感じさせられました。これまでの取り組みで改善すべきところは改善し、良かったところは卑下することなく自信を持って取り組み続け、中川と平岡を中心としてさらに良いチームを作り上げていきたいと思っております。

最後になりますが、蒼穹会の皆様におかれましては、酷暑の中最後まで熱い声援をいただき、ありがとうございました。部員一同、東大戦での男女総合優勝に向けて精進して参りますので、今後とも変わらぬご支援・ご声援を何卒よろしく願い申し上げます。

京都大学陸上競技部監督 仲村 快太

## ②七大戦結果

<男子>

種目	北海道大学	東北大学	東京大学	名古屋大学	京都大学	大阪大学	九州大学
100m	0	0	2	1	11	7	0
200m	0	0	1	0	9	11	0
400m	0	0	1	0	3	12	5
800m	0	0	6	0	8	2	5
1500m	0	0	12	1	0	0	8
5000m	0	0	11	5	0	2	3
5000mW	0	0	0	2	12	7	0
110mH	0	2	4	4	0	11	0
400mH	0	2	0	0	7	7	5
3000mSC	0	2	9	10	0	0	0
4×100mR	2	0	1	4	6	5	3

4×400mR	1	4	3	2	0	6	5
トラック合計	3	10	50	29	56	70	34
走高跳	3.5	2	0	5	10.5	0	0
走幅跳	0	0	0	9	7	5	0
三段跳	0	0	0	0	7	11	3
棒高跳	1	10	0	0	0	10	0
砲丸投	0	7	3	6	0	5	0
ハンマー投	0	6	0	11	3	0	1
やり投	6	6	0	0	0	6	3
円盤投	0	2	0	11	1	3	4
フィールド合計	10.5	33	3	42	28.5	40	11
男子合計	13.5	43	53	71	84.5	110	45

<女子>

種目	北海道大学	東北大学	名古屋大学	東京大学	京都大学	大阪大学	九州大学
100m	0	0	4	0	2	4	0
400m	3	4	0	2	0	1	0
800m	0	4	1	0	2	0	3
3000m	3	0	0	0	1	6	0
100mH	2	0	5	0	3	0	0
4×100mR	0	0	3	0	2	4	1
トラック合計	8	8	13	2	10	15	4
砲丸投	0	3	0	0	4	3	0
やり投	0	2	0	0	7	1	0
走幅跳	0	4	1	0	0	3	2
走高跳	0	1	3	0	0	6	0
フィールド合計	0	10	4	0	11	13	2
女子合計	8	18	17	2	21	28	6

### ③七大戦各競技総括

～短距離～

男子100m

予選

石原(2) 11.04(-2.4)3 着

高田(3) 10.79(-0.2)1 着 Q

山田(3) 10.78(+0.3)1 着 Q

男子 100m 予選には石原(2)、高田(3)、山田(3)が出場した。

山田は久々の対校戦であったが落ち着いたレース運びをし、高田はラスト余裕を持って流す様子を見せ両者とも組1着のPBタイで予選を突破した。石原は風に泣かされ僅差で予選突破とはならなかったが、最近の不調を払拭させる良いレースであった。(小井)

決勝

山田(3) 10.66(+0.8)1 着

高田(3) 10.68(+0.8)2 着

男子 100m 決勝には山田(3)、高田(3)が出場した。スタートと同時に持ち前の加速で他者を引き離しそのまま逃げ切り1着をとった山田、加速で山田に遅れをとったものの後半に大きく追いつき僅差で2着となった高田による京大1、2フィニッシュを成し遂げた。両者ともに大幅PBであり、京大陣営を大きく鼓舞する走りとなった。(小井)

男子200m

予選

高田(3) 22.01(-1.7)2 着 Q

藤浦(4) 22.49(-1.7)4 着

高橋(2) 21.76(+0.3)1 着 Q

男子 200m 予選には高田(3)、藤浦(4)、高橋(2)が出場した。高田は序盤から前に出て、最後流しながらもUBを出すなど決勝に期待がかかる走りをした。藤浦は最後まで前の走者にくらいつき、自己新記録をだす走りをしたが、決勝ラインに1歩届かなかった。高橋は後ろと圧倒的な差をつけ余裕の組1着で決勝へ駒を進めた。(清水太)

決勝

高橋(2) 21.47(-0.3)2 着

高田(3) 21.67(-0.3)3 着

200m決勝には予選を勝ち抜いた高橋、高田が出場した。両選手ともにスタートから積極的に飛び出し、コーナーを曲がると先頭争いを繰り広げた。

高橋においては直線に入って先頭に立つが、ラスト20m付近で失速し二位でゴールした。レース後に頭を抱える姿からも分かるように、優勝を狙っていた高橋にとっては悔しいレースとなった。この悔しさを忘れず、京大のエースとして来年のリベンジに挑んでほしい。

高田においては、ラストの直線でやや失速するも粘りの走りをし、見事ランキングを返す三位に輝いた。ここ最近の好調を見せる走りとなり、今後のさらなる自己記録更新、対校戦での優勝に期待がかかる。(白星)

男子4×100mR

山田(3)-高田(3)-高橋(2)-石原(2)

40"15 1着

男子 4×100mR 決勝には山田(3)→高田(3)→高橋(2)→石原(2)の走順で出場した。

1走の100m王者である山田から先行すると完璧ともいえるバトンパスにより2走の高田の持ち味である高いトップスピードが遺憾なく発揮され他大学との差をさらに広げた。3走高橋へもスムーズにバトンが渡されると惚れ惚れするようなコーナリングと圧倒的な走力で格の違いを見せつけ、コーナーであったにも関わらず、京都大学が先行しているのかは一目瞭然だった。4走の石原は大阪大学をはじめとする後続の猛追に動じずに安定した走りで最後まで失速することなく1着でゴールした。この記録によって大幅に大会新記録を更新すると共に、日本インカレの標準を突破した。七大戦後も京大短距離はこの記録に満足することなく、走順やメンバーを変更しており、さらなる好記録を出す可能性は十分にあると考えられる。(池上)



(見事優勝を飾った男子4×100mR)

男子400m  
予選

益田(3) 49"84 2着 Q

藤浦(4) 50"00 3着

岩本(2) 49"45 1着 Q

男子400m予選には益田(3)、藤浦(4)、岩本(3)が出場した。

1組の益田はスタートから中盤までまわり先行される形で入ったがラストの直線で追い上げを見せ、最後は混戦の中でトルソーも功を奏して2着でゴールした。

2組の藤浦は前半から積極的に入り力強い走りをみせたが、後半追い上げてきた他大の選手にぎりぎりかわされ3着となった。

3組の岩本はスタートから外レーンの九大の選手がハイペースで入るなか冷静にレースを進め、中盤に加速するとラストの直線で一気に先頭へ躍り出た。(川崎)

決勝

岩本(3) 49.25 4着

益田(3) 52.59 8着

男子400m決勝には益田(3)、岩本(3)が出場した。

岩本は前半から積極的に入り、内側から阪大の2選手に先行されるものの何とか食らいついて併走した。ラストはスパートをかけて追い上げを見せ4着でゴールした。予選・決勝とPBを更新する素晴らしい走りだった。

益田は1番外の8レーンでスタートしバックストレートで内側の選手に追い上げられると中盤に先行された。その後は思うようにスピードがのらず8着でゴールした。

(川崎)

#### 男子4×400mR

益田(3)-高橋(2)-岩崎(4)-岩本(3)

3'23"99 7着

一走は益田(3)。前半キレに不安があるように見えたが、個人400の反省を生かし後半切り替え、良い順位でバトンを渡す。二走の高橋(2)が持ち前のスピードで前半で先頭に躍り出て、更に差をつけて三走の岩崎(4)に渡す素晴らしい走り。岩崎は後ろから迫る阪大1回生加藤に対し、上手く外を走らせる位地取りをした。スピードと器用さを併せ持つ岩崎の得意な展開である。しかしここで接触が起きてバトンが落ち、京大は7位に順位を落とした。岩崎、そして四走岩本(3)は前との距離があっても決して諦めずに走り切った。しかし順位を覆すことは出来ず7位でのフィニッシュとなった。(宮園)

#### 女子100m

予選

三好(4) 12.59(-0.3)1着 Q

齋藤(2) 12.95(+0.6)3着 Q

女子100m予選には齋藤虹(2)、三好(4)が出場した。

齋藤はトップとは加速区間で大きく離されるも危なげなく組3着で予選を突破し、昨年のリベンジを果たした。

最近好記録を連発している三好は向かい風にも関わらずPB付近の好記録を出し、組1着で予選を突破した。(小井)

決勝

三好(4) 12.64(-0.4)3着

齋藤(2) 13.03(-0.4)5着

女子100m決勝には齋藤虹(2)、三好(4)が出場した。加速区間で大きく1位の選手に離されるも、安定した走りを見せ、三好が3着、齋藤はラストで刺しきれず僅差で悔しい5着となった。しかし、京大女子の黄金時代を具現化した素晴らしい走りを決勝の大舞台でやり遂げた。(小井)



(意地の走りを見せた女子主将三好)

#### 女子4×100mR

森尾(4)-齋藤(2)-平岡(3)-三好(4)

49"05 3着

女子4×100mR決勝には、1走森尾、2走齋藤、3走平岡、4走三好のオーダーで臨んだ。森尾は今までのリレーで1走の経験を多く積んでおり、いいスタートとなった。いい流れでバトンを受け取った2走の齋藤も順調に外側の選手たちとの距離を縮めた。2走と3走のバトンパスではミスがあり、ロスを生んでしまったが、その後平岡が切り替えて挽回に努めた。4走の三好には阪大、名大に続いてバトンが渡り、順位を上げることはできなかったが、大きく差を詰めた。目標であった優勝には届かず悔しい結果となったが個人種目との兼ね合いが多い中で新記

録を更新し、確実に水準は上がってきており、さらなる記録更新を目指す。(平松)

女子400m

予選

中野(3) 1'01"45 4着 q

女子400m予選には中野(3)が出場。序盤からスピード感があり、かつリラックスした短長の走りが出来た。ホームに入った時点で3位だったものの、ラストで刺されてしまい4位となった。しかし見事な粘りの甲斐あって記録はUBを1秒以上更新する1'01"45、プラスでの決勝進出、さらに関カレB標準突破の好記録。冬からの練習の成果を存分に発揮した。(宮園)

決勝

中野(3) 1'01"14 5着

女子400m決勝には中野(3)が出場した。予選と比べて周囲の選手のレベルが高く序盤から外レーンの選手に離されるものの、自分のペースに持ち込んでレースを組み立てた。ラストまで失速することなく力強い走りを通じ予選よりタイムを上げて5着でゴールした。得点まではあと一歩及ばなかった。(川崎)

～ハードル～

男子110mH

予選

五十嵐(3) 15.52(-1.5) 3着 q

男子110mH予選には五十嵐(3)が出場した。岩崎(4)は欠場した。五十嵐は練習で

もキレのある動きを見せており、自己記録更新が期待された。レースでは序盤からやや固さが見られたが、前の2選手をしっかりと追いかけて、3着でゴールし、タイムで決勝に進出した。向かい風の中でのPBであった。(田淵)

決勝

五十嵐(3) 20.26(+1.3) 8着

男子110mH決勝には五十嵐(3)が出場した。更なる自己記録更新と得点が期待された。しかし、レースでは1台目のハードルから大きくぶつけてしまい、やや出遅れた。そこからも粘って走ったが、8台目のハードルでバランスを崩し、転倒してしまった。悔しい結果となったが、今後の飛躍が期待できる試合となった。(田淵)

男子400mH

予選

岩崎(4) 57"63 2着 Q

金盛(3) 55"27 4着 q

青柳(2) 54"91 1着 Q

男子400mH予選には岩崎(4)、金盛(3)、青柳(2)が出場した。

1組の岩崎は序盤から外レーンの選手に先行しラスト100mは後方を確認しながら余裕を持って2着でゴールした。

2組の金盛は前半から積極的に入り、外レーンの選手に追いついて併走したが、ラスト100mで競っていた2選手に離され4着でゴールした。

3組の青柳はバックストレートでぐんぐん加速し外レーンに追いついたが8台目のハ



ードルで歩数が合わず失速した。しかしラスト100mは意地の加速を見せ1着でゴールした。(川崎)

#### 決勝

岩崎(4) 53"76 3着  
青柳(2) 53"86 4着  
金盛(3) 55"68 7着

男子400mH決勝には岩崎(4)、金盛(3)、青柳(2)が出場した。

岩崎はスタートから内レーンの阪大、九大の選手に距離を詰められ、カーブに入ったところで先行された。ラスト100mは粘りの走りを見せ3着でゴールしたが、優勝を目指していただけに悔しい結果となった。

青柳は外レーンの選手が前半からハイペースで走る中で冷静にレースを進めた。カーブでは内側の選手に追いつかれたものの、直線に入ると圧巻のスパートで内側の選手に競り勝ち4着でゴールした。

金盛は前半からテンポよくハードリングしていたがラストはスパートがかからず7着でゴールした。(川崎)

#### 女子100mH

平岡(3) 15"08(+1.6) 2着  
新保(3) 15"89(+1.6) 5着

女子100mHには平岡(3)と新保(3)が出場した。

平岡は前半で出遅れてしまったが、後半でしっかりピッチを刻んで順位を上げ、2着でゴールした。優勝はならなかったが、実力を示した。

新保は、多種目出場の負担がありながら

も、自己記録を更新した。あと一步で得点とはならなかったが、力を十分発揮した。

(田淵)

#### ～中距離～

#### 男子800m

#### 予選

杉原(2) 1'56"77 2着 Q  
西川(3) 1'56"09 2着 Q  
平山(3) 1'56"30 3着 q

男子800m予選には西川(3)、平山(3)、杉原(2)が出場した。

一組目を走った杉原はランキング2番手の東北大大塚が棄権したこともあり持ち前の巧みな走りで組2着で予選を通過。

二組目の平山は先頭集団についていき冷静にレースを展開したがラストの直線で一人に抜かされ組3着となった。しかし最後まで気合を見せたことが功を奏し、タイムで予選を通過した。

三組目の西川は落ち着いたレース運びをし余裕の組2着で予選を通過。これにより京大は3人全員が決勝に駒を進めた。

(小笹)

#### 決勝

西川(3) 1'53"97 3着  
杉原(2) 1'56"78 4着  
平山(3) 1'59"96 6着

決勝にも予選を通過した3人が出場した。

西川は積極的に表彰台を狙える位置でレースを展開していき55秒付近で400mを通過。そこからは600mを超えて東大北岸が一人抜け出したものの最後まで二番手

争いを演じ自己新となるタイムで3着をもち取った。

一方の杉原、平山は決勝が予選から僅か2時間後だったこともあり落ち着いてレースを進めることを選択した。そのような中でも他大の選手にしっかりと勝ち切り、杉原は4着、平山は6着でゴールした。結果、京大は全員が得点し800mで8点を獲得した。(小笹)



(優勝争いを繰り広げた中距離西川)

#### 男子1500m

小井(3) 4'02"24 9着  
西川(3) 4'05"63 13着  
奥村(2) 4'10"81 18着

1500 決勝には小井(3)、西川(3)、奥村(2)が出走した。いきなりハイペースで入り、縦長の集団が後を追う展開。小井が果敢に攻め、4-5位に着く。その後ろに西川、奥村。ハイペースなレースに振り落とされる選手がいる中、粘りを見せるも小井は9位。西川は上位を狙い勝負に出るも終盤失速し13位。奥村も難しいレースに果敢に挑んだがペースについていけず18位となった。3人とも伸び盛りでこれからが楽しみなだけに、今回の悔しさをバネにさらなる飛躍を期待したい。(宮園)

#### 女子800m

小倉(2) 2'20"32 3着  
服部(1) 2'26"91 8着

女子800mには小倉(2)、服部(1)が出場した。

小倉は持ちタイムが四番手だったこともあり先頭集団で積極的にレースを進めた。そこからも粘りを見せ好タイムで自身の目標でもあった3着を勝ち取った。

一方の服部はこれが大学生になって自身初のレースとなったものの果敢な走りですっきりと前が狙える位置でレースを進めた。さらにその上でタイムもまとめあげ、組8着でゴールをした。結果、京大はこのレースで2点を獲得した。(小笹)

#### ～長距離・競歩～

#### 男子5000m

江端(4) 15'53"65 14着  
三嶋(3) 16'18"62 18着  
稲田(2) 16'32"72 19着

東大、名大中心にタイムを持つ有力選手が揃い、暑くタフなレースになる事が予想された5000mには、江端(4)、三嶋(3)、稲田(2)が出走した。

その中で積極的なレースを見せたのは三嶋、集団が3つに分かれると先頭集団について行き、さらに決して遅くないペースの中でグイグイ前に出て先頭に立つと約1000mの間トップに立ち、その後は失速するも大きな魅せ場を作った。江端は終始堅実な走り、最後は三嶋をかわし京大勢トップの記録。稲田も序盤から離される苦しい

展開ながら終わってみれば三嶋に次ぐ着順でゴールした。予想通りタフなレースの中魅せ場を作ったものの、やはり持ちタイムの圧倒的な差を埋める事は出来なかった。しかし今回出走出来なかった選手にも来年こそはこのレースで自分が得点する事を狙う選手が多く、得点争いに絡む強い学部生を再び見せるため切磋琢磨していきたい。

(千代田)

男子3000mSC

梅原(3) 10'11"95 13 着

伊藤(2) 10'18"23 15 着

斎藤(3) 11'13"16 21 着

梅原(3)、斎藤(3)、伊藤(2)が出走した。スタートから1000mにかけて、小川(名大3)、秋吉(東大2)が集団から抜き出てそれぞれ単独走を行った。

梅原、伊藤は3位集団で様子を伺った。斎藤は暑さのせいか1周目から最後尾につき厳しい出だしとなった。1000mから2000mでは1,2位は変わらず、バラけた3位集団について梅原らも入賞の機を伺っていたが集団に着けず後退した。2000mから3000mでは全体的にスパートがかかり、小川が1着、秋吉が2着でそれぞれ単独でゴールし、その後の混戦の末、梅原が13着、伊藤が15着、斎藤が21着でゴールした。入賞ラインが9'55と近い資格記録を持っていた梅原には悔しい結果になった。伊藤は20秒近く自己記録を更新したが、入賞には及ばなかった。斎藤はコンディション不良の中、練習での走りができず悔しい結果となった。3名とも3回生以下であるためこれを糧に来年での更なる活躍を期待す

る。(清水快)

女子3000m

濱口(1) 10:33.46 4 着

周藤(3) 11:07.01 10 着

女子3000m決勝には周藤(3)、濱口(1)が出場した。

濱口は序盤から先頭についていく積極的な走りを見せた。その後ペースが落ちはじめてもなんとか粘りきり、4位で1点を獲得した。

周藤は集団の後ろから自分のペースでレースを進め、2000m過ぎから単独走になりペースを落とすが、ラスト一周では力を振り絞り、暑い中であつたが1回生で出した10秒以上自己ベストを更新し、10位でフィニッシュした。日ごろの走り込みが存分に発揮されたレースであつた。これからのさらなる記録更新及び関西インカレの標準切りが期待される。(照山・白星)

男子5000mW

原(4) 21'47"09 1 着

尾原(4) 21'53"87 2 着

土田(1) 22'48"73 6 着

尾原(4)、原(4)、土田(1)が出場した5000mWは序盤から先頭集団が京大3人を含む6人に絞られる展開。尾原や原は積極的に前に出て集団の主導権を握り、土田は落ち着いてついていく。レースは4000m手前、原が仕掛けて一気に動いた。圧巻のスピードで忽ち後続を突き放し、そのまま歩ききって好記録で優勝した。尾原も最後まで阪大の選手と争う展開を見事勝ち

きって2位でのゴール。高校以来のPBも更新した。土田は中盤連続で警告を受けるなど余裕を失い集団から離れるものの、単独で粘りのレースを見せ6位をキープ、1回生ながら得点に貢献した。2日目最初の対校レースにしてまさにチームを勢いづける素晴らしいレースだった。(千代田)



(三人で大量得点をした尾原、原、土田)

#### ～投擲～

##### 男子砲丸投

大住(3) 8m59 13位

安藤(3) 6m84 16位

男子砲丸投には、安藤(3)と大住(3)が出場した。安藤は1投目で6m84を記録した。大住は初出場ながらも1投目で練習時の記録を上回る8m59を記録し、今後の活躍が期待される。2投目以降は2人ともショートで、惜しくもトップエイト入りを逃した。(紀之定)

##### 男子やり投

木下(1) 45m81 10位 ☆大学初

岡本(3) 31m61 18位 ☆今季初

大住(3) 36m08 16位

男子やり投には大住(3)、岡本(3)、木下

(1)が出場した。

大住、岡本は砲丸投、円盤投の疲労がある中、渾身の投擲をし、健闘を見せてくれた。

木下は一回生ながらも、自己ベストに迫る記録を出した。エイトラインに届かず悔しい結果となったものの、収穫の多い試合となった。来年のリベンジに向けて課題を克服させていくことに期待が高まる。(宮澤)

##### 男子ハンマー投

岡本(3) 29m42 4位

男子ハンマー投げには木之下(4)、安藤(3)、岡本(3)が出場した。

木之下(4)は緊張からか、練習の成果を発揮しきれず惜しくもNMとなった。

安藤(3)は3回目で記録を伸ばしたものの、決勝進出はならず、目標となる得点には及ばなかった。

岡本(3)は1投目から自己ベストを大きく更新する投擲を見せ、2投目には30mに迫る記録を出してランキングを返して目標である4位に輝き、2日目最初の種目からチームに勢いを与えた。(松本)

##### 男子円盤投

岡本(3) 30m19 6位

安藤(3) 23m25 13位

五十嵐(3) 21m50 15位

男子円盤投には安藤(3)、五十嵐(3)、岡本(3)が出場した。

安藤は、1投目で少し動きが硬くみえたが、2投目以降は大きく円盤を動かし修正した。3投目に23m25を投げ、記録を伸ばすも13位でエイトラインには届かなかった。

岡本は、2 投目で 30m19 を投げてエイトラインに残った。その後、記録を伸ばすことはできなかったが事前ランキングからは順位を覆し、点数を獲得した。

五十嵐は、110mH との兼ね合いで 3 投目のみであったが、普段から時間を見つけて円盤投の練習をしていたこともあり、PB に迫る 21m50 を記録した。全員が多種目出場の中、最後まで健闘している姿はとても熱い試合であった。3 人とも今後の活躍に大きな期待がもてる。(中芝)

#### 女子砲丸投

篠田(3) 11m14 1位  
新保(3) 9m18 5位

女子砲丸投には篠田(3)、新保(3)が出場した。

新保は多種目出場の疲労が見える中でも 6 本を投げきり 9m18 という記録だった。春先の標準切りチャレンジから技術の進歩が見られるため、10m を超える記録に期待したい。

篠田は練習での筋力アップで大きく記録を伸ばした。10m を超える記録を連発し、6 投目には京大新記録となる 11m14 を記録した。まだまだ砲丸投の技術は未熟であるため、今後大会記録やさらなる京大記録の更新に期待したい。(眞鍋)

#### 女子やり投

篠田(3) 54m09 1位  
新保(3) 33m59 2位

女子やり投には篠田(3)、新保(3)が出場した。

ランキングトップの篠田は 1 投目に大会新記録となる 54m09 を投げ首位に立ち、他を寄せつけない貫禄の優勝を飾った。

新保も 3 投目終了時点で 2 番手につけると、5 投目にさらに記録を伸ばし自己ベストとなる 33m59 を投げ篠田とワンツーフイニッシュを達成した。この種目で京大は 7 点を獲得し、初日の対校種目として勢いのある結果でチームに追い風をもたらした。(永田)

#### ～跳躍～

#### 男子走高跳

山中(3) 2m20 1位  
田中(2) 1m95 3位タイ  
鴛原(4) 1m90 6位

男子走高跳には田中(2)山中(3)鴛原(4)が出場した。

田中は 1m80 から試技を開始し、1m90 までは 1 本目で全て成功させた。1m95 は 3 本目で成功させ、ベスト更新を狙った 2m00 では惜しい跳躍もあったが、成功させることはできず、3 位タイで試技を終えた。

山中は前日に体調を崩してしまい、本調子ではない中での試合であったが、2m03 を 1 本目で成功させ、その後 2m13、20 も 1 本目で跳ぶ強さを見せつけた。自己ベストである 2m23 に挑戦したが、惜しくも成功させることはできず、1 位で試技を終えた。

鴛原は 1m85 から試技を開始し、1m90 も 2 本目で成功させた。続く 1m95 では、助走スピードと跳躍を連動させることに苦戦し、成功させることはできず、6 位で試技を終えた。(松井)

#### 男子走幅跳

高橋(2) 7m39(-0.6) 1位  
齋藤(4) 6m73(-1.9) 6位  
梶(4)DNS

男子走幅跳には齋藤啓(4)、高橋(2)が出場した。

高橋は1本目から7m08の好記録を出し、試技1回目から1位についた。その後も7mを超える跳躍を見せ続け、6本目で7m39を跳び優勝を決めた。

齋藤は1本目で6m65、2本目で6m73を出し、その後も安定した跳躍を見せた。3本目以降記録を伸ばすことはできなかったが、最終的には6位をキープした。得点としては2人で7点を獲得し、男子の総合得点に大きく貢献した。(高山)

#### 男子三段跳

齋藤(4) 14m70(-0.4) 2位  
松井(2) 14m42(-0.8) 5位  
梶(4) DNS

男子三段跳には齋藤(4)と松井(2)が出場した。梶(4)は体調不良のため残念ながら欠場となった。

齋藤は1回目に14m04を跳び、2回目はファールとなる。この時点で7位であったが3回目に14m64を跳び2位となり、ベスト8に残る。その後は4、5回目をファールしたものの6回目に14m70を跳び、記録を塗り替え2位のまま競技を終えた。

松井は2本目にUBである14m42を跳び3位となった。その後3本目で記録を伸ばせずベスト8以降は暑さと疲れで助走が噛み合わず全てファールとなり、5位で競技を終えた。松井は14m42をもって関西

インカレB標準を突破した。(杉本)



(一年間チームを牽引した主将齋藤啓)

#### 男子棒高跳

吉富(2) NM  
深井(3)DNS

男子棒高跳には吉富(2)が出場した。深井(3)は体調不良のため残念ながら欠場となった。吉富は肘の痛みを感じており、本数を減らすという目的で3m80から跳躍を行った。しかし直前の練習以上に助走の出力が上がってしまい、その結果調整できずにNMとなった。(杉本)

#### 女子走高跳

新保(3) 1m35 6位

女子走高跳には新保(3)が出場した。新保は1m30から試技を開始し、1m35まで2回目で成功させた。続く1m40では、多種目出場の疲れから、助走が噛み合わず、成功させることはできなかった。(松井)

#### 女子走幅跳

新保(3) 4m32(-0.3)10位

女子走幅跳には新保(3)が出場した。今

季、思うような跳躍ができず不安を抱える中、1本目は勢いよく助走したが、ファウル。続く2、3本目は記録を残すもエイトラインに届かなかった。他種目出場ではあるが、次なる対校戦での活躍に期待したい。(館)

#### ④その他ご報告

この度、大変暑い中にも限らず遠く東京までお越しいただき、熱い声援をくださったOB・OGの皆様のお名前を以下に掲載させていただきます。また、足を運んでいただいたにもかかわらずお名前が掲載されていない皆様におかれましては、この場を借りてお詫び申し上げます。これからも変わらぬご支援をどうぞよろしくお願い致します。

出納正彬 S40  
森本正幸 S41  
藤原忠義 S41  
鯉谷忠夫 S41  
丸山昌造 S42  
芦田皓充 S42  
勝村弘也 S44  
神田光昭 S46  
沼野正義 S47  
間瀬一郎 S47  
高木宣雄 S48  
池本忠司 S49  
桂総一郎 S51  
池田康博 S51  
増田剛志 S52  
三好稔彦 S54

重村充男 S54  
伊豆好弘 S56  
熊谷元 S59  
沢田和昌 S60  
渡辺力 S62  
原田卓 H3  
置塩正剛 H6  
有山啓史 H21  
眞武俊輔 H25  
長谷川聡 H25  
矢澤学 H25  
牧川真央 H26  
西村優汰 H26  
庄司真 H27  
岡本和晃 H28  
下迫田啓太 H28  
櫻井大介 H28

櫻井茜 H29  
紀平直人 H29  
西村規能 H30  
五十嵐隆皓 H30  
伊藤悠希 H31  
横山優花 H31  
谷口博紀 H31  
清水裕美子 R1  
谷川尚希 R1  
潮崎羽 R1  
水野廉也 R2  
三神惇志 R2  
三谷圭 R2  
天野くるみ R2  
後藤加奈 R2  
西脇友哉 R2  
土屋維智彦 R2  
広川知佳 R2  
西脇友哉 R2  
小原幹太 R2

西垣里桜 R2  
澤田剛 R3  
中野水貴 R3  
加藤寿昂 R3  
清原陸 R3  
平野亘 R3  
芦田開 R3  
増尾浩旗 R3  
長谷川隼 R3  
浅井良 R3  
山口佳那子 R3  
西川真悠 R3  
鶴見薫樹 R3  
奥村夏子 R3  
鴨田佳奈 R3  
中尾友哉 R3  
高橋惇寿 R5  
石川結麻 R5  
松岡健 R5  
(1日目37名、2日目63名)





---

蒼穹ニュース 令和5年度 第5号  
令和 5年 8月 2日発行

---

発行所:京都大学体育会陸上競技部  
編集者:白星祥吾・田中颯真・平松藍(副務)  
特別協力:高山兼輔・平林里和子(学連員)  
写真担当:伊藤寿真・川瀬稔己・照山潤(写真係)

---

陸上競技部 HP <http://www.athletics.kusu.kyoto-u.ac.jp/>  
陸上競技部記録 HP <http://www.athletics.kusu.kyoto-u.ac.jp/kiroku.htm>  
関西学連 HP <http://gold.jaic.org/jaic/icaak/index.htm>  
メールアドレス [shirahoshi.shougo.56f@st.kyoto-u.ac.jp](mailto:shirahoshi.shougo.56f@st.kyoto-u.ac.jp) (白星)